



SALVATIONIST

とぎのこえ

2019年標語「主の栄光を語り伝えよう」(旧約聖書 歴代誌上 16章24節)



二〇一九年九月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

初秋号

広報版
2019

September-October
No.2789

もくじ

- メッセージ
神の国で偉い者
台湾・埔里小隊長 少佐 陳素謙 …… 3
- 【連載】聖潔の流れに立つ 第七回
ウイリアム・ブースの聖潔
中将 張田望 …… 4
- 集会報告
克己週間献納集会
救世軍創立154年記念コンサート …… 5
- 士官候補生夏期訓練任命集会
司令官ケネス・メイナー大佐及び
軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐による
キャンペーン …… 6
- 各地のニュース!!
前橋小隊・仙台小隊
キャンペーン(続き)
佐野小隊、若松及び新潟小隊 …… 7
- 各地のニュース!!
西新井小隊、函館小隊、京橋小隊、
札幌小隊、神田小隊、静清小隊 …… 8
- 名古屋小隊、西日本連隊 京阪神四国地区、
横浜小隊、広島小隊、桐生小隊 …… 9
- 女性部ラリー2019年
各連隊 ……10、11
- YP (青少年部)・ファミリーニュース
青年デー 各連隊
広島小隊、京橋小隊、東京東海道連隊、
横浜小隊、佐野小隊、レボリューション
ハワイ、関東東北連隊、西日本連隊
■児童安全保護指針導入研修 ……12、13
- 救世軍見解表明
社会道德に対する救世軍の立場
第1回 人工妊娠中絶 (2)
■〈新連載・第1回〉
神の呼びかけ～神の民となるために～
(1) 救世軍人への呼びかけ ……14
- 召天記事／■災害対策室リポート
■特別養護老人ホーム恵みの家
■救世軍公報 ……15
- アルバム
■集会案内 ……16

2019年 救世軍標語
「主の栄光を語り伝えよう」

国々に主の栄光を語り伝えよ
諸国の民にその驚くべき御業を。

聖書箇所：歴代誌上 16章 24節



新書記長官及び 新軍国女性部書記着任

5月1日付で、書記長官 西村保大佐補及び軍国女性部書記 西村和江少佐が着任しました。

5月10日(金)に開催された克己週間献納集会で司令官によって紹介され、新しい任命を覚えてお祈りが献げられました。(関連記事5ページ)

-きりとリ-

『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)

キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：救世軍創立
154年記念コンサートで
歌う埔里小隊の子どもたち
(関連記事3、5、9ページ)

神の国で偉い者

六月十六日(日) 横浜小隊聖別会

説教(マタイによる福音書 19章13～15節)

台湾・埔里小隊 小隊長 少佐 陳素謙



この聖書箇所の前の部分では、明らかにイエスを批判するために離婚と結婚に關する質問がなされました。この緊張感のある場面に人々が子どもたちを連れて入って来ました。イエスに子どもたちのために祈って欲しいと言った彼らを弟子たちが場違いだと思ったのでしよう、弟子たちが彼らを叱った、と聖書は記しています。

私が属する埔里小隊は二〇〇二年から近隣の子どものための働きを始め、やがてそれは、台湾全島の二十の裁判所から送られる青少年のための働きになりました。集まって来たのは非常にうるさい子どもたちで、大半の子は台湾の道教や仏教の家庭と偶像のお祭り文化の中で育つたため、「静まる」という概念をもっていない。ですから、彼らにとつては騒ぐことが普通で、聖別会もしばしば静まらない状況になりました。埔里小隊開始直後に小隊

に通い始めた求道者たちの中には、救世軍から遠ざかった人、兵士となつても教会に転籍した人がありました。原因は、問題児たちの騒がしさにウンザリしたことでした。また、本音は自分の子どもたちが悪い影響を受けたら困る、であったのを私は知っています。

私は、心の中に大きな痛みを感じ、神の前に泣きながらひれ伏して祈りました。「神様！ 埔里小隊は地震の後に生まれた新しい小隊、台湾連隊再開戦二十三年になって初めてできた小隊です。私はこの子どもたちのための奉仕を止めるべきでしょうか。どうか教えてください！ せっかく小隊に来てくれた人々が行ってしまいました。」

が埔里小隊に送られて来るようになり、いつの間にか平均百人以上の青少年たちと一緒に暮らすことになり、寮として一軒家を五箇所借りました。小隊には二百人以上は入れないので、十年以上ホールや体育館を借りて聖別会をしました。

子どもと青少年のための専門の知識が必要とされるので、私と夫は士官としての仕事をしながら大学で社会福祉の勉強をせざるを得ず、大学院を無事に卒業できたことには神に対する感謝しかありませんでした。過去十七年間、毎日百人の子どもたちと共に暮らし、彼らのために資金を集め、学校を手配し、バイト先を探し、彼らが帰って来ると喧嘩や殴り合いの仲裁に追われ、盗難を防ぐために百二十個のロッカーを買って対応しました。学校では女の子の奪い合い、先生を殴る等が日常でした。カッターを持ってパニックを起こし、激しく怒って学校に停

まっている車を全部ポコポコにし、止めようとした先生と殴り合いになった、という事件もありました。「面倒なことはやめて！」と叫びたいことばかりでしたが、ふと気づきました。「それでも私はまだ生きています。ではないか?」

マタイによる福音書一九章二六節の「人間にできることではないが、神は何でもできる」は本当です。パウロは、「神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることで」(ライビ3・14)と言いました。その賞は、他でもない、イエスご自身です!

は、単に、もつとたくさんの台湾の人々に福音を伝えたいからです! 士官としての二十二年間に埔里小隊と魚池分隊を開戦しました。埔里小隊からは六人の士官と一人の特務大尉が生まれました。私は、近所の子どもたちが神を信じ、ジュニア・ソルジャーたちが将来、救世軍の希望の種となるためにこれから励みます。

日本の救世軍から贈られた制服等を身に着けているこの子どもたちを見てください! この子たちも本当に大変な子どもたちでした。イエスは言われました。「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げはならない。天の国はこのようなる者たちのものである。」(マタイ19・14)

中旅をし、出席者が一万人を超えるような教会で礼拝を守ったことも何回もありますが、埔里小隊に来る度に感動します。大きな教会では子どもたちに奉仕させることが減多にない、そもそも同じ場所でも礼拝することがほほえないからです。これは本物の教会です! と言ってくださいました。

「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたいことなのである。」(マタイ25・40)とあるように、私たちは近所の子どもたちに福音を伝え続けます! (集会通訳謝幕 美少佐(横濱小隊)、埔里小隊来日リポート9ページ掲載)

集会報告

克己週間献納集会

5月10日(金)午後7時 渋谷小隊会館

救世軍創立154年記念コンサート

6月16日(日)午後3時 山室軍平記念ホール

克己週間献納集会

渋谷小隊バンドの演奏によって開会。司会の吉田恭子少佐(清瀬)は、声高らかに主を賛美しつつ集会を導きました。



宇賀神努ワーシップ軍曹(杉並)が、「募金に伺った方に時かれた福音の種が育つように、私たちの心と救世軍に火を与えたい」と開会祈禱。司令官ケネス・メイナー大佐は、挨拶において会衆を歓迎し、書記長官西村保大佐補と軍国女性部書記西村和江少佐を紹介しました(写真2ページに掲載)。シェリル・メイナー大佐(軍国女性部会長)が二人が神のために用いられるよう祈り、書記長官は、「なぜ私なのかと恐れを抱くが、任命として受け入れた。詩編46編が与えられ、ただ主を知りその前にひれ伏しつつ働きたい」と挨拶しました。続いて軍国女性部書記は「医療部の働きが長く、新しい働きへの不安もあるが、祈りの支えと、神の力によって信仰の戦いを戦いたい」と挨拶しました。

続いて、副財務管理部長ナイジェル・ラスコム少佐によって、克己週間募金結果、合計13,967,854円(5月9日現在)の発表と献納の祈りがなされました。



吉田恭子少佐 西村保大佐補 西村和江少佐 ナイジェル・ラスコム少佐 眞鍋勝利兵士 石川一由紀少佐

救世軍創立154年記念コンサート及び第3回救世軍社会鍋俳句コンテスト授賞式

本村大輔大尉(杉並小隊長・写真下左)の司会で進められ、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)の演奏や、渋谷小隊唱歌隊による合唱(写真下中)、青少年部スタッフによる会衆も巻き込んだの賛美(写真下右)、台湾から来日中の埔里小隊ジュニア・ソルジャーによる日本語での合唱(写真表紙)、JSBとの合同演奏、とバラエティに富んだプログラムを老若男女が堪能しました。席上、第3回救



世軍社会鍋俳句コンテスト授賞式がおこなわれ、小林誠兵士(本営伝道事業部)による受賞者へのインタビューや、選者の三浦喜代子氏からの講評があり、司令官ケネス・メイナー大佐が受賞者に表彰状を授与しました。(写真上左より、司令官、三浦氏、受賞者3人) 司会の本村大尉は、詩編100編から信仰に生きる幸いについて語りました。(出席者187人)



〈連載〉聖潔の流れに立つ 第七回

ウイリアム・ブースの聖潔

中将 張田 望

救いと聖潔の軍隊

(承前) 一八六五年七月二日の日曜日は、後に救世軍創立記念日として記念される日となりました。それは、ウイリアム・ブースが東ロンドンの極貧地区で伝道していたグループの中に加わり、福音を語った日です。集会は、毎晩、野外で伝道集会をおこない、続いて、クエーカー派の所有する、使われていない墓地に立てられた大テントでおこなわれました。ウイリアムはほんの短い期間そのグループの中で奉仕するつもりでしたが、その集会上で人々や、荒くれた労働者、犯罪人、売春婦などを目の当たりにして、その貧民のために身を献げるべきだと示されました。夜遅く帰宅した彼は、妻のカサリンに「自分の運命を発見した」と自分の決意を伝えました。ウイリアムが語った力強いメッセージは極貧の人々を回心させ、たちまち、グループに活力を与えました。彼はそのグループから要請され、指導者となりました。ブース夫妻は、神の召しと信じ、その働きのために身を献げ、懸命に活動しました。

十分を受け入れなかったこと、また、伝道会としても、その働き人が必要としたことから、伝道会は「東ロンドン伝道会」として教会から離れ、独立した一つの伝道会として活動するようになりました。貧しい人々への「スープ、ソープ、サルベージョン」の伝道活動は盛んにおこなわれ、集会所は、テントからダンスホールや劇場を借りておこなわれるようになり、一八六八年には、集会所の数は十三、計八千人の会衆を集めるようになりました。やがて活動は英国各地に発展し、名称も一八七〇年には「キリスト教伝道会」と改称されました。伝道会の活動や組織はしだいに現在の救世軍を形づくるものとなり、一八七八年に「救世軍」という名称が正式に用いられるようになりました。ウイリアム・ブースは大将となり、救世軍の最高責任者に推されました。救世軍では、「聖別会」をおこないます。この集会の目的は二つあり、一つは、聖潔の経験を理解し、その経験をしよう励ますこと、もう一つは、私たちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において成長する(ペトロ二・3・18)よう励ますことです。通常、日曜日の午前に各小隊で開かれます。ウイリアム・ブースは、救世軍人を次のように表現しました。「私たちは、救いの民です。それが私たちの特徴です。救いに導かれて救いを持続し、他の人を救いに導き、さらに、私たちは、この地上で天国を宿す全き救い(聖潔)に導かれ、ついには、天国に招かれた時に、肉体上の限界がなくなり、聖潔は完了するのです。」

救世軍の信仰簡条は、キリスト教伝道会が一八七六年に制定した十一箇条のもので、メソジストの信仰からきたものです。そこには、主イエス・キリストの苦難と償罪によって与えられる「救い」と、その後、聖霊による「聖潔」の恵みに生きる信仰が明確に示されています。ちなみに、救世軍人の信仰宣言、「全き救い(Full Salvation)、聖潔についての教理」は次のように述べられています。「われらは、『全く潔く』されることはすべての信者の特権にして、『霊と心と体とを全く守』られて、『われらの主イエス・キリストの来りたまうとき責むべき所なき』に至り得ることを信ず。」(参考テサロニケ一・5・23)「キリスト教伝道会」が「救世軍」という名称に変わりつつあった当時、ウイリアム・ブースは、会議で「聖潔」について語りましたが、その言葉が文章になって残されています。そこから、ブースが聖潔をどのようにとらえていたかを知ることができます。ここで全文を紹介することはできませんので、ほんの一部を抜粋いたします。「……私たちが『主の聖なる者』とされることは、普通の真理であり、救世軍が強調する教理です。それは救世軍軍旗に青色をもって示されています。神は全く聖くしてくださいることができるお方であり、主イエスが、人を罪から救ってくださるお方であることには議論の余地がありません。……罪がないこと。これは、エゼキエル書にある、聖霊についての神の約束が成就することです。『わたしが清い水をお前たちの上に振りかけるとき、お前たちは清められる。わたしはお前たちを、すべての汚れとすべての偶像から清める。』(エゼキエル36・25) また、パウロの祈りは、聖潔が成就するものであることを示しています。『どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も、魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、……非のうちどころのないものとしてくださいますように。』(テサロニケ一・5・23)」

(続く)

佐野小隊 100周年記念聖別会

1919(大正8)年6月15日、佐野小隊は開戦されました。65周年記念誌に、吉田馨小隊長が相生町の会館土地及び建物取得のために骨折られた人々への感謝を書いています。その後、1964(昭和39)年に保育園の働きが始まりました。1985(昭和60)年12月30日には、現在の場所浅沼町新会館で、初めての聖別会が開かれました。

2019年6月23日(日)、司令官キャンペーンとして、100周年記念聖別会がおこなわれました。穏やかな天候が与えられて、人々が続々とお祝いに駆けつけました。集会は、小隊長柘山順子中尉の司会で進められ、奏楽を川島仁子オルガニストが務めました。開会賛美「主のみ救いかぎりなし」(『救世軍歌集』100番)を力強く歌った後、下士官永年勤続章の授与式がおこなわれました。石川知佐子書記40年章、三浦光子家庭団



会計35年章、川島仁子オルガニスト20年章、篠原淳子青少年部会計、岩淵由紀美日曜学校教師に10年章が授与さ



れました。さらに、小倉裕司さん・亜紀子さん夫妻、小林千夏さんが准兵士宣言をし(写真下)、小林真柚さんがジュニア・ソルジャーになりました(記事及び写真は13ページに掲載)。また、日曜学校生徒と学童有志の子どもたちが、五十嵐朝子少佐の導きで「ホザナ」の曲に合わせてタンバリン操練をしました。



司令官は、「雄々しくあれ」(ヨシュア1・1~9)と題してメッセージをしました。祝福溢れる記念聖別会となりました。(会衆 聖別会大人69人、子ども8人)



写真位置

- ①
 - ②
 - ③④
- ①前橋小隊
②仙台小隊
③若松小隊
④新潟小隊

若松及び新潟小隊

6月30日(日)、若松小隊で小隊長松末泰志大尉司会のもと聖別会を守りました。石本敬子兵士が奏楽、中島美和大尉(司令官秘書)がギターでテーマ・コーラスを導き、石本敬子兵士が歓迎の言葉を述べ、石本トシ家庭団会計の証言、軍国女性部会長の勧話があり、司令官は「勇敢な信仰」と題して御言葉を取り次ぎました。(会衆16人)

午後、新潟小隊で特別集會が開催されました。小隊長中川八重子少佐が司会をし、佐藤静子少佐が奏楽。賛美の時間を司令官秘書がギターで導き、バンドアンサンブルや手話賛美、板垣ゆかさんの独唱と、賛美する喜びを一同で味わいました。司令官は、「日ごとの糧」と題して御言葉を取り次ぎました。(会衆19人、恵の座1人)



集会 報告

士官候補生夏期訓練任命集會

6月21日(金)午後7時 山室軍平記念ホール

司令官ケネス・メイナー大佐及び軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐による
キャンペーン 5月~6月 前橋・仙台・佐野・若松・新潟 各小隊



士官候補生夏期訓練任命集會

集會前には、本営玄関前で野戦をおこない、道行く人にイエスの救いを力強く伝えました(写真上)。

集會は、ジャパン・スタッフ・バンドによるバンド演奏「Send The Fire」の中、3人の候補生が入場して開会し、勝篔隆大尉(士官学校)の司会で進められました。士官志願者部長勝篔実香大尉が祈禱を献げ、杉並小隊唱歌隊の合唱「救いの主イエスは」によって十字架にある救いの恵みが高らかに賛美されました。

司令官ケネス・メイナー大佐は、挨拶の後、候補生に夏期訓練の辞令を手渡しました。友安渚候補生は、西日本連隊本部及び天満小隊に、眞鍋嗣道及び恵候補生は渋

谷小隊に任命されました。司令官は、候補生が霊の力による力強い働きができるよう祈りました。

友安候補生は、「士官学校において自分を知る経験をし、苦しみの先に神からの平安と希望をいただいている。不安になるたび、様々な方から励まされ、御言葉をいただいた。霊の導きに信頼して働きに取り組みたい」と証しし、眞鍋嗣道候補生は「様々な経験で自分の自我、心の頑なさを知った。祈りの中で神だけがそれを取り扱い、私を変えてくださる経験をしている。福音を伝える使命を果たしたい」と証しました。加藤光次郎兵士(月島)の聖書朗読に続いて士官学校長ゲイル・ホワイト少佐は、「私たちは聖霊の火を求める」(レビ6・1~6)と題して「神の臨在のしるし、聖別の火が消えたのは民の過ちの故であった。私たちに与えられている聖霊の火は、私たちの内側を清くし、その火によって歩むものとしてくださる。日々その火を求め、いただいて進むものとなろう」とメッセージを語りました。(会衆97人)



杉並小隊唱歌隊



司令官と友安渚候補生



眞鍋恵候補生と眞鍋嗣道候補生 ゲイル・ホワイト少佐

前橋小隊

5月12日(日)、聖別会は小隊長吉田敬大尉司会で進められ、佐々木清枝兵士(写真右)の証言、軍国女性部会長の勧話、有志による合唱「主はわれをもあいし」がありました。司令官は「釜より尊い」(箴言31・10~31)と題し、御言葉を取り次ぎました。集会后、誕生愛餐会をおこない、続いて、連隊長藤井健次大佐補、連隊女性部書記藤井千明大佐補の就任式が司令官の司式によっておこなわれました。(会衆 聖別会27人、恵の座3人、誕生愛餐会25人)



の授与があり、伊藤律子家庭団書記45年章、永尾勉書記30年章、山岸信寛会計25年章が手渡され、永尾書記と山岸会計が証言をしました。また、池越勝之さん・陽子さん夫妻が教会より転会され、司令官が新しい門出の祝福を祈りました(写真下左より、司令官と共に永尾書記、山岸会計、池越夫妻)。軍国女性部会長の勧話に続いて司令官は、「不足しているか、満ち溢れているか」と題して御言葉を取り次ぎました。

午後は、近隣の方を招いて、「英語でお茶っこタイム」をおこないました。「南光台お茶っこソングスターズ」(写真右下)が、数カ月にわたって熱心に練習してきた、「Jesus Loves Me(主われを愛す)」を手話付きで英語で披露しました。軍国女性部会長の「アメリカン・ティーパーティー」(アメリカのお茶会)というテーマで、お茶に関するクイズやゲームを導き、一同で楽しみました。(会衆 聖別会21人、「英語でお茶っこタイム」25人)

仙台小隊

5月19日(日)、小隊長粟飯原順中尉司会のもと聖別会を守りました。席上、司令官による下士官永年勤続章



名古屋小隊

書記長官キャンペーン

6月23日(日)、医療サンデーの1日を守りました。日曜学校には5人の子どもが集い、聖別会をキャンペーンとして守りました。戦友による合唱「いけるみ霊よ」の賛美があり、書記長官西村保大佐補は、「心の底から新たにされて」(エフェソ4・25~32)と題して御言葉を取り次ぎました。(会衆29人、うち新来者1人)

愛餐会後、小隊近隣でラッパの楽の音をもって案内野戦をおこないました。子どもたちがよくチラシを配り、道行く人々が受け取られていました。午後2時より「あなたが知りたい心の健康」と題して、医療部チャプレンでもある西村和江少佐を講師に、医療サンデー講演会が開かれました。(参加者 愛餐会24人。広告野戦10人、うち子ども4人、講演会大人28人、うち新来者4人、子ども5人)



横浜小隊

●5月19日(日)午後、小隊長の学びとして、「終活セミナー」をおこないました。講師として、ライフワークス社の福角健氏を迎え、具体的な備えについて学ぶことができました。

●6月14日(金)~18日(火)、台湾の埔里小隊から21人(ジュニア・ソルジャー16人、スタッフ5人)が来日し、横浜小隊一同で協力して歓迎しました(写真下)。

16日(日)、聖別会では埔里小隊長の陳少佐が「神の国で偉い者」(マタイ19・13~15)と題して、力強いメッセージを語り(要約を3ページに掲載)、神が生きていてくださっていることを実感する時でした。

午後は、山室軍平記念ホールで開催された、救世軍創立154年記念コンサートで、賛美として、2曲プラスバンドで演奏し、『救世軍こども歌集 こどものうたぼん』から「ありがとう」を日本語で歌いました。今回の遠征のために、埔里市長より救世軍軍旗が贈呈され、市議会の方々からのご献金もありました。

1999年の台湾大地震の時、日本の救世軍から派遣された医療チームが活動し、その後、2000年から埔里で救世軍の働きが始まり、現在は200人を超える人が集う小隊になっています。今回の計画によって、横浜小隊に数えきれないほどの恵みが与えられたことを感謝します。



西日本連隊 京阪神四国地区

書記長官キャンペーン

5月25日(土)夜、書記長官西村保大佐補夫妻は大阪セントラルホール・バンド心霊会を指揮。(参加者12人)

26日(日)午前8時から西成小隊救霊会を指揮し(会衆45人)、食事会(参加者32人)後、泉尾小隊に移動し、日曜学校(出席者17人)、祈禱会(会衆17人)、聖別会を指揮しました。席上、ジュニア・ソルジャー(JS)進歩章授与をおこない(会衆21人、恵の座8人)、愛餐会(参加者16人)後、天満に移動。広告野戦(参加者20人)、京阪神四国地区連合集会を指揮し、席上泉尾小隊の石田征慈JS、沖 永遠JSの兵士入隊式を司式しました。(会衆57人、うち新来者2人、恵の座8人・関連記事12ページ)



広島小隊

4月19日(金)、小隊関係者が入所するケアホーム「ディア・レスト可部」で、音楽の集いをもちました。小隊長間島フタミ特務曹長が司会をし、間島年夫特務曹長がテクニカルハーモニカでビバルディ「四季」、「さくら」、懐メロ等11曲を演奏。最後に平和の祈りを献げました。(出席者49人)



桐生小隊

4月21日(日)、志村善也少佐夫妻を迎えた聖別会后、小隊納骨堂前で墓前礼拝の時をもちました。



NEWS!!

各地のニュース!!

下士官引退の時を導き、名誉曹長への感謝状の授与をおこないました。ご家族も集い、神庭名誉曹長の長年の奉仕を感謝するとともに、神様の祝福が溢れる時となりました。



函館小隊

5月12日(日)、聖別会后、函館小隊墓地において、北海道連隊女性部書記鈴木真理子大尉の司式によって昨年12月に召天された高橋京子回心者、今年1月に天に召された附田明子さん(附田敦子兵士長女)の納骨式をおこないました。快晴に恵まれ、主を仰ぎ、天国での再会に希望をおくひと時でした。



(出席者10人)

京橋小隊

6月23日(日)、吉田真中將を迎えて、召天者合同記念会を守りました。



札幌小隊

7月7日(日)、財務管理部長寺澤勇少佐を迎えて聖別会を守りました。席上、司令官に代わって財務管理部長より、7月1日付で菊水上町保育園の施設長となられた栗田美由紀さんに辞令書が授与され、新施設長を覚えて、祝福の祈りを献げました。聖別会には、札幌小隊の戦友方に加え、札幌市内3つの救世軍の保育園より職員も出席し、共に御言葉と賛美に励みを受ける時でした。



神田小隊

6月9日、ペンテコステサンデーの聖別会の席上、細井邦生さんの同友者宣言がありました。



この日出陣の書記長官西村保大佐補が宣言を導き、祝福を祈りました。細井さんは昨年3月以来、欠かさず聖別会に出席し、神田小隊の一員として励んでいます。戦友一同、細井さんのクリスチャンとしての新たな歩みの上に祝福を祈りつつ、大きな恵みを受ける時でした。

静岡小隊

召天者合同記念聖別会及び静岡会館お別れ・感謝会

5月26日(日)、静岡会館に東京東海道連隊長石川和男少佐を迎え、午前は召天者合同記念聖別会を、午後には、静岡会館お別れ・感謝会をおこないました。

静岡会館お別れ・感謝会には、静岡会館に關係のある士官とその子女及び戦友が、北海道から九州まで、全国から集いました。また、近隣からも閉館を惜しんで駆けつけてくださる方がありました。歴代の小隊長ごとに、その時代を写真で振り返りつつ、当時の小隊を支えたゆかりの方々がい出を語り、最後に吉田真中將が祈禱を献げました。共に、100年を超える静岡での働きに感謝しました。新しい静岡小隊の歩みの上に主の導きと祝福を祈り、一同散会しました。(会衆 聖別会41人、昼食会33人、お別れ・感謝会35人・写真上)

6月16日(日)、東京東海道連隊女性部書記石川節子少佐を迎えて、召天者合同記念会がおこなわれました。 ※6月より清水会館という名称は用いません。(会衆27人・写真下)



女性部ラリー 2019年

東京東海道連隊・東京地区

5月15日(水)、天候も守られ、神田小隊を会場におこなわれました。テーマは「Bala Keselamatan (インドネシア語で「救世軍」)～インドネシアの地震と津波被害をおぼえて～」。

昨年9月にインドネシア・スラウェシ島を襲った地震と津波により救世軍の小隊、施設も多くの被害を受けたことから、現地の救世軍とその支援活動をサポートする機会となるよう祈りつつ、計画されました。

午前は「礼拝&インドネシアからのレポート」。連隊女性部書記石川節子少佐が参加者とゲストの軍国女性部会長シェリル・メイナード大佐及び霊的生活成長部長中島美和大尉を歓迎しました。まず、アジアの服を着た中島大尉が、御言葉とコーラスを織り交ぜつつ被災地の写真を映して現地の状況を伝え、共に祈る時間を導きました。災害の甚大さ、また、救世軍の被害状況(8人の救世軍人も亡くなった等)と支援活動、僻地への医療支援の様子などを学び、被災当初、トラウマ・カウンセリングに用いたテントが、礼拝と賛美の場所となったことも紹介され、嘆きを喜びに変える神のご臨在を知る時となりました。

軍国女性部会長は、詩編30編12節を中心にメッセージ。「神は心を変えてくださる方。恐れを平安に、嘆きを踊りにとひっくり返してくださる方である。イエスは十字架の上で手を釘で貫かれ、痛みの極みを味わわれた。わたしたちが感じている痛みを知ってくださり、それを癒そうと願っておられる。深い井戸の底に落ちてしまったと感じるとき、イエスはそこに来て、十字架の釘跡の残る手をわたしたちに差し出してください。その手に、わたしたちも手を伸ばそう。心の内側の痛みを実感し、神に献げるとき、神はそれを受け取って、癒してください」と語り、参加者に粗布を手渡しました。一人ひとりが粗布から聖句の意味を体感しました。

礼拝後の昼食は、アジア料理の弁当2種から選んで楽しく食文化の違いを感じ、友愛セールではインドネシア軍国からの手芸品・アクセサリー・バッグ等に加え、各小隊の手作り菓子や雑貨も販売され、売り上げはインドネシア軍国へ献金されることから、参加者の買い物も進みました。士官学校はカフェコーナーを担当し、集った女性たちがコーヒーを手にあちこちで談笑する姿に、主にある兄弟姉妹の麗しさを見るときでした。

初めてラリーに参加した方々もあり、救世軍の世界的なつながりの中で小隊、連隊、軍国を超えてインドネシアのために心を合わせることができたラリーでした。

(参加者115人 集合写真16ページに掲載)

関東東北連隊・関東地区

5月15日(水)、ゲストに軍国女性部書記補佐石川芳子少佐を迎え、テーマ「神のみ国をめざして」のもと、高崎小隊を会場におこなわれました。午前の礼拝後は、グループに分かれて昼食会。その後、友愛バザーをおこない、インドネシアのパナーの売り上げはインドネシアのために、また各小隊の売り上げは、青少年の働きのため



めに献げました。近所の人も来てくださり盛り上がりしました。その後、石川少佐の導きで、手話賛美を覚えて一緒に賛美し、その後、連隊女性部書記藤井千明大佐補からの3つの提議(①救世軍に導かれたきっかけ ②信仰の喜びの経験 ③今一番にイエス様を伝えたい人)について、小グループでディスカッションしました。「楽しかった! 次回は友達を誘ってみます!」との声も聞かれました。(参加者43人)

関東東北連隊・東北地区

6月18日(火)、19日(水)、「神のみ国をめざして」のテーマのもと、昨夏に改築した新潟小隊会館でおこなわれました。開会礼拝では、司会の連隊女性部書記藤井千明大佐補が、ゲストの軍国女性部書記補佐石川芳子少佐と今年着任した士官、5～91歳の幅広い年齢層の31人の参加者を歓迎。細貝のぶ江大尉(高崎)が、春にインドネシアで開催されたSPÉACÓ(南太平洋及び東アジア地域における士官のための学校)に参加し、命がけて僻地を訪問する現地の士官の姿勢からチャレンジを受けた、と証しました。石川少佐は、イエス様と歩む中で本当の健康が備えられる(ルカ17・11～19より)と語りました。

集会後の友愛セールは、各小隊の手作りの品々が完売。続く「手話で賛美しよう」は、石川少佐の指導で、手話を加えて2曲賛美(写真下)、手振りから歌詞の恵みを一層感じることができました。その後、近所の老舗店で新潟の郷土料理「わっぱめし」をおいしくいただき、再び会館で、藤井千明大佐補からの3つの提議(関東地区と同じ)について、小グループで分かち合いました。

2日目は、新潟市中心部から約20キロ離れた秋葉区に移動し、「史跡古津八幡山・弥生の丘展示館」にて、縄文・弥生時代の、土鈴と勾玉づくりを分かれて体験。館内の展示や屋外に再現された弥生時代の竪穴式住居を見学しました。最後の昼食では、今回の恵みを大いに分かち合い、来年の再会を約束して解散しました。初日の夜、新潟・山形地域で大きな地震があり、新潟市内にも津波注意報が発令されましたが、市内は大きな被害もなく、日程も守られて、感謝の内にラリーを終えました。



NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

北海道連隊

5月21日(火)、22日(水)、女性部ラリー&交流会として、「神のみ国をめざして今を生きる」のテーマのもと、岩見沢市ログホテル「メープルロッジ」を会場におこなわれました。

開会集会では、連隊女性部書記鈴木真理子大尉が「神に愛されて造られた私たち」と題してメッセージ。今回は、2日間を通じ、誰もが迎える死をクリスチャンとして自分らしく迎えること、実際にどのような備えが必要かなどについて思い巡らし、考える時となりました。最後に「今、主と共に歩む」備えをし、「み国をめざす」ことを決心し、祈りを献げました。(参加者26人、子ども2人)

東京東海道連隊・東海道地区

5月22日(水)名古屋小隊で、ゲストに軍国女性部書記西村和江少佐を迎え、テーマ「神のみ国をめざして」のもと、おこなわれました。

開会礼拝が齋藤久美子少佐(名古屋)の司会で始まり、連隊女性部書記石川節子少佐が参加者とゲストを歓迎。証言は、熊田光子少佐(静岡小隊長)が静岡会館が閉館されるに当たり様々な方々からの問い合わせがある中で、イザヤ書59章から主の言葉を伝える使命に立つ思いを証しました。メッセージは軍国女性部書記が、「御国が来ますように」(マタイ6章)と題し、御言葉から、私たちの日常の中に神の国がある、と語りました。

記念撮影の後、名古屋名物「天むす弁当」をいただきながら、齋藤丈夫大尉(名古屋小隊長)が「紹介ゲーム」で、西村少佐をクイズ形式で紹介しました。名古屋小隊の方が点てたお抹茶をいただいた後、インドネシアの地震と津波の被害のため、友愛セールがおこなわれました。引き続き、「ホスピスで迎えるクリスチャンの旅立ち」と題し、西村少佐が講演。チャプレンとして見た現場の事例などを通して、キリスト者として最期の旅立ち、また見送り方を考える時となりました。(参加者20人)

西日本連隊

6月18日(火)、「神のみ国をめざして」のテーマのもと、新しい岡山小隊を会場におこなわれました。早く着いた参加者のために、コーヒー等が用意されていました。午前11時、連隊長添田美和少佐の司会で開会、賛美と祈りがあり、テーマ・コーラスを岡山・福山小隊他の合同バンドが伴奏し、山室軍平中將の兄(峯三郎氏)の孫にあたる横屋聖子さん(高梁教会所属)が、山室軍平からの誕生祝いの小型聖書から、御言葉がいつまでも変わらずに語りかけてくださる幸いを覚えていることや、聖子さ



写真位置

- ①
- ②
- ③

①北海道連隊
②東京東海道連隊・東海道地区
③西日本連隊



んのお父様(恒民氏)が山室軍平の働きを伝えようと絵を描き、手紙を残されたことなどを証されました。また、映画「地の塩 山室軍平」で、山室が路傍伝道中、いつもそばで熱心に聞いていた女性に負われていた赤ちゃんが、横屋家の人物であったことに、一同、神様の導きを覚えました。続いて石坂奈緒美少佐(岡山・福山)が、ハワイ研修から与えられた希望について証しました。

連隊女性部書記加藤直子大尉は、「神の御国をめざして」(フィリピ3・12～21)と題して、「パウロが困難や逆境の時にそうであったように、神様が与えてくださる賞を目指し、天に国籍をもつ者として歩んでいきましょう」と語り、最後に、互いに祈り合う時をもちました。

礼拝後、写真撮影があり、昼食は素敵なテーブルセッティングの接待で、楽しくおいしくいただきました。午後は友愛セールをおこない、各小隊の出品の他、インドネシアの支援のための物品販売もあり、買い物を楽しみました。その後、セレクト・タイムとして、手芸(ハートのアクセサリー作り)とコラージュ交流(絵や写真の切り抜きを使って自己紹介)に分かれて、過ごしました。できあがったアクセサリーをバッグにつけて帰った参加者もありました。

翌日は、オプション・ツアーとして、丸畑美智子少佐の案内で岡山後楽園などを観光しました。(参加者49人、オプション・ツアー9人)

YP (青少年部)・ファミリーニュース

青年デー

東京東海道連隊 4月30日(火)～5月2日(木)

ゲストに副財務管理部長ナイジェル・ラスコム少佐、伝道事業部長補佐ブレンダ・ラスコム少佐を迎え、御殿場市「YMCA 東山荘」でおこなわれました。テーマは「イエス様、真ん中にいてください」。青年たちの企画で賛美や集会が進められました。(参加者42人、恵の座18人 集合写真16ページ)



関東東北連隊 5月2日(木)、3日(金)

ゲストに青少年部長朝澤義人大尉、本営青少年部のダニエル・ラボシエール軍国特務曹長及びリエン・ラボシエール軍国特務曹長を迎え、「国立赤城青少年交流の家」でおこなわれました。今回は分かち合いや交流が中心でした。閉会集会では、細貝のぶ江大尉(高崎)、リエン・ラボシエール特務曹長の証言と、青少年部長によるメッセージ「あなたは素晴らしい！」(イザヤ43・4)があり、メッセージの後、連隊長藤井健次大佐補が祈りの時を導きました。参加者全員に祈りのカードが配られ、決心の時をもちました。



最後に、連隊女性部書記藤井千明大佐補が祈りを献げ、閉会しました。(参加者45人、恵の座・回心者12人、再決心者12人、その他2人 集合写真16ページ)

横浜小隊

●5月18日(土)、ジュニア・クッキングをおこないました。今回は、ざるそばとフルーツポンチをつくりました。毎回、初めての子どもたちが加わっています。



佐野小隊

●6月23日(日)、司令官ケネス・メイナー大佐夫妻を迎えた100周年記念聖別会の席上、小林真柚さんのジュニア・ソルジャー入隊式がおこなわれました。



レボリューションハワイ

●5月20日(月)～24日(金)、軍国インターンシップ・ディレクター石坂臣司少佐夫妻は、米国ハワイの弟子訓練プログラム「レボリューションハワイ」の視察をし、日本から参加している石川真兵士(江東)、山口エリ兵士(神田)、山谷愛加兵士(渋谷)の3人との面談もおこないました。地域奉仕センターとして様々なプログラムをおこなっている「クロックセンター・ハワイ」も視察しました。



関東東北連隊

●キッズ・フェスタ

6月23日(日)15時、司令官キャンペーンの中で、開催されました。連隊女性部書記藤井千明大佐補が司会し、河野祐介ジュニア・ソルジャー(JS)が開会祈禱を献げ、大人と子ども合同のブラスバンド演奏もありました(写真下)。席上、司令官ケネス・メイナー大佐より、JS進歩章が3人に授与され、佐野保育園の石坂真使先生がそれぞれインタビューをしました。最後に軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐は「あなたの好きなことはなんですか」と題して話しました。(参加者26人)



西日本連隊

●新兵士誕生

5月26日(日)午後、書記長官西村保大佐補夫妻を迎えた西日本連隊京阪神四国地区連合集会の席上、泉尾小隊の二人のジュニア・ソルジャーが、兵士になりました。(写真左より、泉尾小隊長三澤直規少佐、沖 永遠兵士、石田征慈兵士、司式者の書記長官)



西日本連隊 5月2日(木)～4日(土)

大阪セントラルホールでおこなわれました。ゲストの司令官ケネス・メイナー大佐及び軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐は、終始イエス様を主題として、青年たちにわかりやすいメッセージを語りました。音楽ゲストのジャパン・スタッフ・バンドの引地正樹隊長によるバンドの指導の時ももたれました。

閉会集会で司令官は、「皆さんは神によって愛され、目的をもって造られました。本来の目的にそって生きてください」と御言葉から力強くアピールしました。個人的な祈りの時をもち、司令官夫妻、通訳の中島美和大尉が、招きに応じた人のために、日本語と英語で記された祈りの御言葉の用紙を用いて、個人的に祈りを導きました。賛美に溢れ、参加者が互いに、そしてイエス様に近づくことのできた青年デーとなりました。(参加者54人、祈りの招きに応じた人25人)



東京東海道連隊

●キッズクラブ

5月19日(日)午後、杉並小隊・総合センターでおこなわれ、大勢の子どもが集まりました。旧約聖書のダニエル書より、ダニエルとライオンのお話がドラマ仕立てで再現され、ライオンの穴に模したテントが置かれ、子どもも大人も参加しつつお話が進み、子どもたちがとても盛り上がっていました。ゲームを楽しんだ後、折紙でライオンを製作。ダニエルの話を通して、子どもたちが「主の栄光を拝する」ことを学んでくれることを意図しました。

席上、青少年部長朝澤義人大尉の司式によって渋谷小隊の関根仰くと知くんのジュニア・ソルジャー(JS)入隊式がおこなわれ(写真上 証書を手に入れている右が仰JS、



左が知JS)、進歩章も参加していたJSに手渡されました(写真左)。とても楽しい時を過ごすことができました。(参加者48人)

広島小隊

●4月7日、進級祝いサンデーの聖別会で、増田靖さん・成美さん夫妻の三男、光寿くんの感謝と祝福の式がおこなわれました。小隊長間島フタミ特務曹長が司式し、長男大和くん、次男尊くんも前に出て、祈りの時をもちました。

また、進級お祝いの時には、金本由季絵さんの長女萌那さんと長男潤くんにもお祝いの品を手渡し、小隊長がお祈りしました。(写真は、増田家と金本家の子どもたちを囲んで)



京橋小隊

●6月2日(日)、司令官ケネス・メイナー大佐夫妻を迎えた聖別会の席上、



細見真実さん・クリサンドラさん夫妻の長男眞斗くんの献児式がおこなわれました。出席者一同で新しい命に神様の豊かな祝福があるよう、心を込めて祈りました。

児童安全保護指針導入研修

6月12日(水)、13日(木)、山崎製パン企業年金基金会館SUNSHINEを会場に、幹部士官、連隊青少年部書記、社会福祉施設(児童養護及び保育)の施設長や職員が集い、開催されました。講師に万国児童安全保護ディレクター補佐(万国本営)のメリッサ・グッドマン氏を迎えました。グッドマン氏は、講義に先立って世光寮、機恵子寮を見学し、世界的に見てもレベルの高いケアや取り組みがなされているとの実感をもった、とのことでした。

今回の研修の目的は、「児童安全保護に関する1日研修会を開催する講師を養成する」でした。児童安全保護の必要性、原則、科学的側面から見た脳の発達と虐待、児童や成年弱者の特性、基準に違反した場合の通報と対処、各現場での取り組みと改善について、ワークショップ形式で学びました。(参加者43人)

児童安全保護指針は、全世界の救世軍で、青少年や成年弱者に関わる人々が学び、遵守することが求められています。日本軍国としては、2020年3月までに順次研修を実施して啓発及び実施を努力目標とし、2020年4月より完全実施予定です。



創立者 ウィリアム・ブリス 大将 プライアン・ペドル(万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナ(救世軍本営 東京都千代田区)



アルバム

写真位置

- ①
- ②
- ③

- ①東京東海道連隊・東京地区 女性部ラリー (関連記事 11 ページ)
- ②東京東海道連隊 青年デー (関連記事 13 ページ)
- ③関東東北連隊 青年デー (関連記事 13 ページ)



士官志願者サンデー 10月6日

士官志願者祈祷週間
 9月30日(月)～10月6日(日)
 「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」(イザヤ書6章8節より)



感謝祭出発集会 日時：9月6日(金) 午後7時
 会場：山室軍平記念ホール
 説教：書記長官 西村保大佐補

感謝祭献納集会 日時：10月4日(金) 午後7時
 会場：杉並小隊・総合センター
 説教：医療部長 ピーター・ホワイト少佐



救世軍のスポーツ伝道

9月からラグビーワールドカップが日本で初めて開催されます。救世軍では、世界的なイベントの陰で懸念される反人身取引の啓蒙活動をおこないます。

召天者合同記念会

日時：10月12日(土) 午後2時
 於：多磨霊園 救世軍墓地前(7区1種5側1番)
 ●上記集会に先立ち、午後1時より社会部墓地(2区2種14側42番)、午後1時15分より救世軍人墓地(2区2種2側23番)にて、それぞれ記念集会をおこないます。

10月20日女性部サンデー

聖別会の中で一円献金献納式をおこないます。2019年の一円献金は、ニュージーランド、フィジー、トンガ及びサモア軍国(南太平洋及び東アジア地域)のフィジー連隊にある、「ファミリーケアセンター」の女性と子どもたちの必要を満たすために用いられます。

(取扱支部)

発行日及び定価
 ▼発行日
 福音版・毎月一日発行
 広報版・奇数月十五日発行(除く七月)
 ▼定価
 福音版・一部 四〇〇円
 広報版・一部 一〇〇円
 クリスマス特集号(十二月一日号) 一部 一〇〇円
 振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼 救世軍
 印刷人 代表者ケネス・メイナ
 編集人 寺澤 真由子

〒101-0051 東京都千代田区
 神田神保町二丁目十七番
 電話 東京(03)三三七〇八八一
 発行所 救世軍本営
 印刷所 株式会社ビーアンドエス